

研究課題名：教員による『看護学実習に必要な行動チェックリスト』の信頼性・妥当性の検討

看護学の学習は、臨地実習が大きな割合を占めていますが、実習という特殊な学習形態のために実習につまずいてしまう学生さんもいます。そこでわたしたち研究グループは、そのような可能性がある学生さんをいち早く見出し、早期から意識的に指導することで実習をうまく乗り切ることができるように支援できるのではないかと考えました。

今回、その可能性を見つけるアセスメントシートを試作し、看護学専攻の教員の協力を得て、看護学実習の遂行において気になる学生さんと気にならない学生さんの普段の様子を思い出していただいて点数化し、複数の教員間での一致度や気になる学生さんと気にならない学生さんとの間で点数が異なるかどうかを調べることにしました。

思い出してもらう学生さんは現在在学中あるいは卒業生の中から選定していただきますが、誰を思い出してもらうかは、協力をしてくださる教員にゆだね、わたしたち研究者には誰なのかわかりません。またアセスメントシートには学生さんの名前を記載することはなく、記号を使います。もし対象になったとしても個人名が一切出ないため、個人が特定されることはなく、第三者がシートを見ても誰をアセスメントしたのかは全くわかりません。

その対象になることを断りたい卒業生の方は池松(ikematsu@met.nagoya-u.ac.jp)にお知らせください。協力してくださる教員にお知らせし、ほかの学生さんを思い出してもらうようお願いいたします。

2018年7月9日

名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻 池松裕子
山梨県立大学看護学部 遠藤みどり、井川由貴、山本奈央
山梨県立大学人間福祉学部 坂本玲子
神戸市看護大学看護学部 江川幸二